

# 小野田町の文化財

第一集 (増刊)



小野田町教育委員会

重要文化財 松本家住宅

## 発刊にあたって

わが町、おのだの貴重な文化財が、数多く町内に存在しています。こうした先祖が遺してくれた多くの貴重な文化財を正しく理解し、また認識を高め、これを保存し、多くの人々が活用してこそ、その価値が高いものと思います。このたび、こうした貴い先祖の足跡を永く保存し、後世に伝えるために保護委員の方々のご努力によって丁重に発掘されたり、または行きとどいた保存の方法がとられていることに敬意と感謝を申し上げます。

しかし、こうした文化財は単に保護委員にのみ委ねるのではなく広く私たちが認識を高め、関心を深めるためにも、この小冊子にまとめて刊行することになりましたが、出来るだけ多くの方々が再認識の資料として活用いただければ幸いです。

昭和59年8月25日

小野田町教育委員会

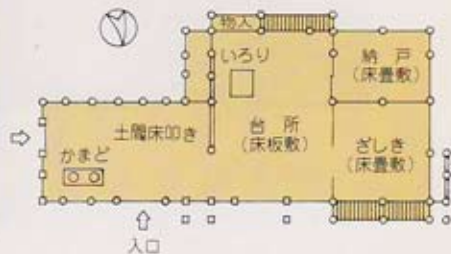
教育長 笹原 茂

# 目 次

重要文化財	松本家住宅	1
旧 跡	軽井沢番所跡	2
	小野田町内の古城館	3
城 館	夕日館(小野田城)	4
	朝日館(朝日山城)	5
	味ヶ袋城跡	6
	荒 館(三津沢城)	7
	芋沢館(工藤館)	8
	常陸館	9
	八石館	10
	奥山館	11
天然記念物	魚取沼と鉄魚の生息地(国指定)	12
	荒沢の水ばしょう(町指定)	13
	モリアオガエル(未指定)	14
神 社	須賀神社(下野目)	15
	熊野神社(月崎)	16
	飯豊神社(麓山)	17
	薬菜神社(薬菜山)	18
	神明神社(小瀬)	19
寺 院	羊澤山正来院(芋沢)	20
	清水山法昌寺(長清水)	21
	大機山皆伝寺(東上野目)	22
	小田山竜川寺(下区)	23
	清水山長昌院(原町)	24
	月崎山慈恩寺(月崎)	25
	その他の社寺(神明神社・薬師堂・山の神・観音堂)	26
遺 跡	鹿原D遺跡	27
	大宮古墳群	28
	深鉢土器(大木十式)	29
芸 能	小野田の田植踊り	30
	薬菜神社三輪流神楽	31
沼	長 沼	32
	白 沼	33
滝	荒沢の滝	34
山	薬菜山	35
	小町田甚匂	36
	文化財案内図	37



松本家住宅見取図



### 松本家住宅（国の重要文化財）

松本家住宅は仙台藩六十二万石伊達家の重臣奥山家の家老職、松本家が代々居住した家屋です。昭和46年国の重要文化財に指定され、昭和52年に総工費 2,700万円で修理復元され、建築当初そのままの姿を保っている寄棟茅葺の分棟型武家住宅です。

建築年代は宝暦7年（1757）奥山家が黒川郡大和町吉岡より小野田町に移封された当時既にこの家は建っていたと伝えられており、また住宅の建築手法を旧仙台領内に残る他の侍屋敷とくらべると、建築されたのは十八世紀を下ることはなく、おおよそ 260年位の星霜を経て今日に至ったものと推定されています。



## 旧 跡



### 軽井沢番所跡

軽井沢は山形県境の半森山南麓にあり、寛永5年（1628）仙台藩の関所のおかれた所である。

積雪のため、10月から3月まではこの御番所を門沢御番所に移した。番所跡には役所、神社、墓地、宿場跡も残っており、旧街道にも往時の趣きを止めている。明治になって廃止された。

# 小野田町内の古城館



# 城 館



## 夕日館（小野田城）

この城は飯豊神社の西方にあり、貞和年間（1345頃）旭館主内海重朝の弟で石川姓を名乗った重仲の築城と伝えられている。

城主石川家は大崎の家臣であったが、天正19年（1591）大崎一揆の後伊達の家臣となった。城は天峽を利用した要害で、本丸・二の丸・三の丸、<sup>ケルマ</sup>曲輪跡、井戸跡もあり、中世山城の典型である。



### 朝日館（朝日山城）

義経征討の折、葛西氏はその功により宮城・岩手・山形にまたがる十二郡を領し、大崎地方に4人の地頭職を置いた。従って小野田は葛西氏の領土で一族の内海重成に分封された。重成の子重貞は建久2年（1191）月崎の荘に朝日館を築城、その子孫代々この地を居城とした。重成より六代の孫忠重は故ありて小野田忠重と改姓した。時正に文保元年（1317）であり、小野田の名称が初めて世に現われたのである。

現在の内海今内氏はその子孫と伝えられている。「加美郡誌」更に六代の康重は南朝方の忠臣であり、合一後は北朝足利氏に勤仕し、七代重朝の弟が石川姓を名乗り、大崎家臣団の一員として戦場で名をはせたがやがて伊達氏の軍門に降り味ヶ袋館、荒館等と共に廃城となったのである。場所は月崎地区内にあり、高さ70mの鳴瀬川南岸、河岸段丘上にあり典型的な山城である。東西150m、南北180mの地に本丸があり、大手門と大きな空濠とその内側に土塁が走っており、井戸跡が確認されている。





### 味ヶ袋城跡

「味ヶ袋系統由来記」によると承久3年（1221）源為家の子内山家信が承久の乱後賀美郡に逃れ、味ヶ袋三津沢に築城したと伝えられる。つまり家信は、承久の乱で天皇方に組し、敗北した武士で後、東北鎮台多賀城主の臣となり、この地を賜わったとなっている。場所は現在の味ヶ袋、袋の加藤氏宅裏手の高台にあり、南寄りの所が最も高く、東西50m南北30mの平場が本丸となる。南方一帯に高い土塁がまわり本丸を中心に壇は北面に伸び、二段の広地、つまり二の丸・三の丸を作り出す。壇は下段ほど広く、三の丸は扇状に開き、その面積は東西100m南北120mに及ぶ。

関係古文書は米川頼治氏宅にある。



### 荒 館（三津沢城）

味ヶ袋橋上より向かって南面右寄りの丘上が館跡である。

文安2年（1445）内山常陸守為宗（葉葉太郎）の築城で、北は鳴瀬川に面し、東は断崖、西に葉葉山をひかえ、天險を利用した要害で完全な山城である。

天正年間（1570～1580代）廃城となった。



### 芋沢館（工藤館）

芋沢にあり、鳴瀬川に矢坪川が合流しその西方、鳴瀬川河岸台地の旧墓地一帯が館跡である。芋沢讃岐の先祖の築城と伝えられるが、年代は不明である。

天正17年（1589）大崎家臣を除かれ、寛永17年（1640）帰農した。平山城形式で本丸跡とそれをとり巻く空濠跡が認められる。



## 常 陸 館

芋沢にあり、矢坪川が鳴瀬川に落ち合う南岸段丘（現、常陸哲氏宅）が館跡である。郡誌に「常陸海存権守ここに居る。年代等不明なれどその子孫四家に別れて現存する」とあり、東南面の水田に段丘が見られ遺構を止めている。館跡の東辺に五輪塔があり、常陸坊海存の碑と伝えられている。





## 八石館

伊達政宗の家臣、中島監物定成が小野田郷を拝領し、小野田本郷に平城を築いた。これが八石館である。中世に建てられた山城とは違い、いくつかの外濠を廻らしている。このような築城法は、鉄砲伝来によって新しい戦法が行われるようになってからで、八石館跡地は今尚その面影を留めております。旧館と新館があり、館主は先に旧館に住み、後に城内の新館に移ったとされている。その交代の時期は江戸初期とされている。東側に南北に平行する濠と土塁跡があり、南側水田地にも水濠跡がある。新館の中門は現在も残っており、当時の在村武士の館を知る上で貴重である。現在は、末孫と言われる伊藤善也氏が住んでいる。



## 奥山館

城内奥山氏宅が館跡で、文禄2年(1593)伊達家臣中島監物定成が小野田を領して築城した。

その後、中島氏は岩手県に転封し、古内義長が移り、宝歴6年(1756)その子義清が宮崎に転じ、代って奥山氏が移り現在に至っている。

平城で昔時は内濠外濠土塁があったが、現在その一部を残すのみである。



# 天然記念物



魚取沼と鉄魚の生息地（国指定）



山形県との県境近く、宮崎町にまたがる魚取沼は鉄魚の生息地である。

鉄魚は金魚や鯉に似た魚で鮒の一種といわれ、ひれが発達し、色も黒赤白または、これらのまだらなものもある。昭和8年国の天然記念物に指定された。また、魚取沼は翁山、吹越山の山ふところにあり、景勝地である。







### 荒沢の水ばしょう（町指定）

鹿原の大滝川流域の、荒沢の湿原には、水ばしょうが至るところに群生している。春の雪どけと同時に白い葉を出すが、その出揃った様子は正に景観である。

昭和53年町の天然記念物に指定された。

現在、町花でもある。





#### モリアオガエル (未指定)

船形山の鏡ヶ池に源を発する大滝川の流域は、荒沢と呼ばれ湿原が多く、モリアオガエルの生息地である。モリアオガエルは雪解けを待ってこれらの湿原の木立に産卵するが、ミカン大の白い卵塊は珍しく、また見事なものである。なお、鏡ヶ池もモリアオガエルの群生地である。

# 神 社



## 須賀神社（下野目）

地元では須賀八幡神社と呼ばれています。最初は月崎の天王にあった「牛頭天王社」です。安永年間にこの地に遷在されたものと考えられます。明治41年近くの藤沢八幡社を合祀しています。

祭神は、健速須佐之男命 菅田別尊

祭典日 4月15日 9月15日

社殿内に宝暦9年の絵馬があります。



### 熊野神社（月崎）

この地方一帯を領していた内海家の守護神として、五代内海長重が紀州和歌山の熊野社より分霊奉移したと記録に見えます。

慈恩寺境内にあり、月崎一村の鎮守で伊豆神社、飛馬神社と合祀しています。

祭神は、熊野夫須美神、御子速玉神、家津御子神、伊邪那岐神

祭典日 4月9日 9月9日



## 飯豊神社（麓山）

延喜式神明帳に

陸奥国一百産 大 十五座 小 八十五座

賀美郡 二座 並小

飯豊神社 賀美石神社

と記載された古社で、別称「石神」とも言われます。その由来は元来境内にある大石を御神体として祀ったからとも考えられます。

文武天皇慶雲2年（705）將軍巨勢麻呂が勸請したと伝えられます。本殿は寛政8年の建造で、山神社、雷公天神社を合祀しています。

祭神は、豊宇気比賣神

祭典日 4月12日 9月12日





### 薬菜神社（薬菜山）

慶雲2年將軍巨勢麻呂が勸請、また、天平9年按察使大野東人が、出羽の国玉野に通ずる道路を開いた時、悪疫の鎮禱と工事の完成を祈って奉祀したと言われます。また、坂上田村麻呂が征夷の業を終え、帰洛の時に日吉二十一社の内三社を祀ったことが記録にあります。山上に奥の院、麓の地に里宮大宮道場があり、通常御神体は里宮に奉安されています。

祭典時に演じられる三輪流神楽は県の無形文化財に指定されています。



### 神明神社（小瀬）

はじめは今のジョウノという所に祀られたようですが、洪水のため現在の地に移ったとのこと。

社殿内に文明14年（1482）再興と書かれた梵天がありましたので、相当古くより祀られたことが窺い知られます。

明治に飯豊神社へ合祀されましたが、昭和21年再び還御創立した小瀬の鎮守であります。

武者絵が猷額されています。

# 寺 院



## 羊 澤 山 正 来 院 (芋沢)

町内にある曹洞宗系寺院のうちで一番早く開山された寺院といわれます。応永23年（1416）宮崎の洞雲寺五世正応全等和尚開山と風土記に記録されています。

最初は寺山の地にありましたが、後に対岸の小瀬に移され、再び芋沢に帰り建立されたため、寺号の字を改めたと言っています。



### 清水山法昌寺(長清水)

正中2年(1325)ごろ天台宗寺院として創建された最も古い寺と思われます。

万治2年松島瑞巖寺九十八世明極和尚が中興開山して臨済宗となったと伝えています。

本尊は釈迦牟尼仏です。





### 大機山皆伝寺（東上野目）

応永31年（1424）宮崎幡竜山洞雲寺八世盛室祖隆和尚が開山されました。

寛延年中、火災のため堂塔一切が焼失、今のところに再建立したと伝えられています。

本尊は釋迦牟尼仏



### 小田山竜川寺（下 区）

往昔は正伝山竜川寺という天台宗寺院でしたが、天正元年（1573）ごろ洞雲寺十四世天初秀補和尚によって中興開山されたといわれます。

安置されている千手観音は、もともと天台宗が信奉するものであることから、その伝えを示すものと思われます。

本尊は釋迦牟尼仏（風土記）



### 清水山長昌院（原 町）

寛正6年（1465）洞雲寺十一世天中智清和尚が開山されました。  
再度に亘る火災のため、故事来歴を伝えるものはありません。

墓地の中に延宝2年刻名の墓一基があります。原町開発に関するもの  
と思われます。

本尊は観音



### 月崎山慈恩寺（月崎）

開山の年代は不明ですが、創建のころは天台宗であったようです。二世万節重公代に臨済宗に転じたものと思われます。殿内の格子天井には花鳥の図が画かれています。

また、開基と見られる位碑もありますが、誰であるかは明らかではありません。

本尊は観音 慈覚大師御作（安永風土記）



## その他の社寺

この他、各部落毎に多くの村鎮守ある屋敷内の神祠が古くよりまつられています。それは土地の歴史と深いかかわりをもっています。

また、寺院にあつては、味ヶ袋、宝泉院、青野観音堂がありました。今は廃寺となり面影だけを残しています。



神明神社 小野田町原町



薬師堂 小野田町西上野目



山の神 小野田町鹿原三杉



観音堂 小野田町鹿原青野

## 遺 跡



出土品

### 鹿原 D 遺跡

昭和53年夏、葉菜山麓の畜舎建設工事現場から旧石器数点が発見され石器文化談話会、その他関係団体及び芹沢長介東北大教授等の本格的発掘調査を行った。

その結果、わが国最古の土器と言われている隆線文土器が発見されたのである。このことは、わが国考古学史上極めて重要な意味を有するのである。かつて群馬県岩宿で打製石器を発見した相沢洋平氏の業績を学界に発表した明治大学教授杉原壮介氏は、旧石器時代には土器は存在しなかったとして「無土器時代」と命名し、その説は永く学界の通説となったのである。鹿原遺跡の発見はその説をくつがえす証左の一つとしての位置づけがある。杉原氏の同門の弟子である芹沢氏はここでも奇しくも師の説をくつがえすことになったのである。こうして鹿原遺跡の発見によって葉菜山麓は遺跡の宝庫としての価値を富に高め、今後の調査研究の成果が大いに期待されるのである。郷土小野田にも、今から12,000年～15,000年の昔、古代人が山野をかけめぐっていたことが想像できる。出土品の一部は町公民館に陳列してある。



### 大宮古墳群

本町字上野目大宮1の地内にあり、20m×120mの範囲内に一辺約10mの方墳七基が等間隔に並ぶもので各墳には石塔や石仏が立ち、その数大小21におよぶ。時代は古墳後期のもので薄葬令により古墳が小型化した後の古墳であると推察される。遺跡の周囲は全部整理され、水田となっているが、所有者大宮氏がよく保存に努めている。

— 町史より —





### 深鉢土器（大木十式）

昭和34年4月、中区の早坂三郎さん宅の畑から出土したもので、高さ43cm、厚さ5mmの縄文土器である。時代はBC 2500年頃、縄文中期のものである。

動物の脂の跡、炭の破片も付いていたので貯蔵用、もしくは煮焼用に使われていたものと推察できる。発見時は相当こわれ、破片状であったが、補修復元している。この土器は、宮城県文化財に認定され、8個発見されたうち、1個は東小野田中学校に保存され、他は東北大学考古学陳列室にある。なお、「宮城県史古代編」にも記載されている。





### 小野田の田植踊り

米作りに対する豊作祈願の信仰行事として、古くから当町中嶋、月崎に昔風の名残りを留め、今日まで伝わっている田植踊りがある。踊りの所作は一番の袖振りでは正月祝いから豊作への唄上げ、二番の一本扇子では薬菜山と地方美人である娘を自慢にとり上げ、三番の二本扇子では七ツ森を紹介し大豊作と結び付け、最後の上り果てでは腰が「やめ候」として田の神においとま申すという事を唄っている。また、青野地区にも同型の田植踊りが伝えられている。昭和35年4月23日宮城県重要無形文化財に小野田の田植踊りとして指定された。



### 薬菜神社三輪流神楽

天平9年鎮守將軍大野東人が薬菜山上に白幣を立て大己貴命おほみこと、小名彦命おなひこを祀ったと伝え、また、大同2年坂上田村麻呂が薬師三所権現(山王八幡白山)を祀ったがのち薬菜山大宮寺となった。南北朝時代になって社僧を改めて祠官となり、大崎氏から伊達氏へと保護が付され、天和3年伊達綱村により亀岡八幡造宮に神楽を伝授し、塩釜神社にも奉納を命ぜられている。現在所伝は十二番を伝えているが春秋二季の祭りは、昔は社人が舞ったが今は氏子の手で行われ、宮司の大宮家が管理している。毎年5月8日の春祭り11月23日の秋祭りに特設舞台で演ずる。



## 長 沼

前船形山の東麓にあり、長沼沢の水を集めて黒々と横たわっている。沼の中に小島もあり、風光もよい。山魚・鮒・岩魚が生息し釣り人も多く、春の山菜取りや秋のキノコ取りで賑わう。



## 白 沼

長沼の北に隣接している。この沼は大小2つであるが、水量の多いときは続き沼になる。ハヤが少々生息しており風光もよいので、長沼とともに町民に親しまれている。水源は前船形山の畳石沢であるが、落口がないので知られている。地底を縫って青野川に注ぐのだと、地元の人はいっている。

また、附近には、他にも小さな沼が点在するが、みな青野川の源水になっている。





## 荒沢の滝

鹿原南滝庭の荒沢にあり、俗に大滝と呼ばれている。大滝川にかかるこの滝は七段になっており、一の滝が最も高く約五丈（15m 余）、二の滝、三の滝はこれより順次低くなって、四の滝以下は段階になった激流になっている。滝壺は深く、真上に渡されている橋からながめると、濃い藍色は無気味といおうか、神秘的とでもいおうか、目のくらむほどである。滝の上に不動尊の御堂があり、桓武天皇の時代に坂上田村麻呂が大宮教存に命じてこれを祀らせたと伝えられ、信仰を集めている。戦前雨乞いの霊場でもあり、旱天の際は、よく滝壺に馬や犬・猫を投げ捨てたといわれている。また、滝庭部落は平家の落人の部落ともいわれ、現在観光地としても有名で、附近にキャンプを楽しむ若人が多い。



## 薬 菜 山

今から2100年前に爆発したと伝えられる休火山で、扇状形を呈している。町の、ほぼ中心に位置し海拔 553m である。鳴瀬川を下観し大崎耕地が展開し、よく晴れた日には遠く大平洋を見ることが出来る。山谷が端麗で富士山に似ているところから、加美富士と呼ばれ人々に親しまれていると同時に、森林資源の中心となっている。

昭和42年から48年にかけての、国営開拓パイロット事業による薬菜山麓一帯 782ha の草地造成で、牧草畑が全面に広がり一段と自然公園の趣きがみられる。春の若菜、山菜採り、秋の紅葉、きのこ狩りなどで訪れる人達の憩いの場として、遊園地、また、ジギスカン料理のレストハウス等が新築され、四季を通じて家族づれなど、たくさんの方々の行楽客でにぎわいをみせている。冬は絶好なスロープと条件の整ったスキー場としてその名も高く町内はもとより県内各地からのスキーヤーに大変よろこばれている。

山頂に神祠あり天平7年(奈良中期)疫病流行のとき、坂上田村麻呂がここに薬師如来を祀ってから薬菜山の名の起りとも言われている。





小野田甚句  
(宮城県)

一、音に名高い 薬菜山よ (チヨイサ)

下を流るる アノ鳴瀬川 (チヨイチヨイチヨイサ)

(以下はやし言葉略)

二、鳴瀬七滝 不動の滝は

大崎五郡の 祈禱の神よ

三、田舎なれども 一度はござれ

小野田馬の市 アノ 盛り場に

四、川の鳴瀬で 産湯を使い

鮎で鱒々 ササ 鮭のぼる

五、わたしや薬菜 一軒家だけれど

住めば都よ ササ 花が咲く



## あ　と　が　き

この度、前からの宿願でありました「小野田町の文化財」の発刊が、愈々その運びをみるに至りました。申し上げるまでもなく、わが小野田町に於ける文化財は、町の宝であると共に国の宝でもあります。文化財保護委員会は寧日之の保護管理と調査発掘にいそしんで参りました。小野田町は昔時王野田といわれ、慶雲年間或いは建暦年間に勧進されたという社寺等もあり、さらには縄文中期の土器・石器等の出土をみるなど、古くから集落が拓けていたと考えられます。

私たちの小野田町の由来と之に営々として継続されて来た文化財の存在を思うとき改めて誇りをもって、その奥ゆかしさを痛感せざるを得ません。私共文化財保護委員は第2第3の続刊を準備しており、益々文化財の紹介に努めております。町民の皆様方も是非御一読をいただき文化財に対する御理解を益々昂められますと同時に一層の御指導と御協力を希ってやみません。最後にあたってご協力いただきましたみなさま方に対し深い感謝の意を申し上げる次第であります。

昭和59年 8月 1日

文化財保護委員長 畠 山 勇 一

◇編集協力者

小野田町文化財保護委員会

高山 勇一

吉岡 成美

大宮 信

坂元 倫夫

小野田町社会教育主事

菊地 伴美

## 小野田町の文化財

昭和五十九年八月二十五日 印刷

昭和五十九年八月二十五日 発行

発行者 小野田町教育委員会

宮城県加美郡小野田町字内谷地

一三四の一

印刷 内藤印刷有限公司

岩手県一関市赤荻字桜町一六―二

電話(〇一九二)二五―四四三三



菜 菜 山